玖島魂

故郷ひらき　世をひらく

学校HP

大村市立玖島中学校
学校だより　第26号
R7．1．8発行
文責：校長　大場祥一

新年　明けましておめでとうございます

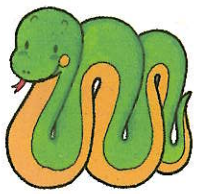
年を越す大きな節目の14日間の冬休みを終え、大きな事故や怪我もなく3学期を迎えることができました。今年の干支「巳」にちなみ、正岡子規の句を引用しながら、次のように話をしました。ご家庭でも話題にあげていただき、背中を押していただければと思います。本校の取組「ふるさと教育」が、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について評価され文部科学大臣表彰を受けることとなりました。今学期も職員一同「ものにする　ものを言う　ものに成る」生徒の育成に取り組んでいきます。今年もよろしくお願いいたします。

○「玖島魂」を心に秘めて

○ニュースや情報を届ける会社の1つ「時事通信社」が実施する「教育奨励賞」
- 創造性に富んだ特色ある教育として、玖島の「ふるさと教育」が1校だけ長崎県の代表として推薦された。
- 残念ながら賞は獲得できなかったが、下記のような本校の取組が評価され「文部科学大臣賞」を獲得した。
  ※玖島中の「コミュニティ・スクール」……地域や保護者が、学校と一体となった学校づくり
  ※1年生の「まつりへの参画」、2年生の「起業体験学習」、3年生の「地域貢献活動」
- この取組は2年前から始まり、現高校2年生、1年生も含め、皆さんと、そして先生方とともに喜びたい。
- 県内で類を見ない取組の玖島の新たな伝統の中にいることを自信と誇りにして、今後も取り組もう。
- 来年度は、新1年生から高校3年生まで6年にわたる先輩後輩の歴史のつながりとなる。
- 歴史の1コマを毎年度、当該学年、そして玖島中全体ですばらしい足跡を記している。
  ⇒24日(金)の「ふるさと学発表会」、「くしマルシェ」でも轟かせよう。

○今年から、本校のチャイムが「校歌」をイメージしたものとなった。
- 「玖島の魂」……「故郷ひらき、世をひらく　決意は胸にみつるかな」のフレーズのチャイム
- 「玖島の魂」として心に留め、毎日の学習や生徒会活動、部活動など、これからも力強い輝きを放とう。

○「巳年」⇒「脱皮し続ける年」



○「巳」(へび)に由来する言葉は、たくさんある。

○起床の「起」
- 「ヘビ」と「走る」の形。
- ヘビが頭をもたげて走る姿から、人が立ち上がって、何かを始めるときの姿に似ている。
  ⇒「立つ」や「起きる」の意味として使われるようになった。

※へび年の今、「立ち上がってほしい」、「起き上がってほしい」

○改革の「改」
- ヘビ形の木を、木の枝で打って、自分に加えられた災いを改変するまじないのこと。
- 「改める」と言う意味に用いられ、改革や変革、新たなものに置き換える意味として使われている。

※ポジティブな考えを示す、前を向くことを意味する漢字もたくさんある。

○巳年の新年、今年1年「脱皮し続ける年」に。
- 「ヘビ」は、「脱皮」をする生き物だ。
- 個体によって差があるらしいが、2～3か月に1度「脱皮」しているらしい。
- 古い皮を脱ぎ捨てて、新しいものにしている。
- 「脱皮」ができなければ、病気に感染したり、血行障害を起こしたりして、生きることが難しくなる。
- 昨年までの自分、昨日までの自分、さっきまでの自分ではなく、古いものを脱ぎ捨てて成長していく。
- 「立ち止まっていては何も生まれない」、「後ろ向きでは前には進めない」、「斜めに構えていては真っ直ぐ歩めない」

○「一年は正月に　一生は今に在り」　正岡子規
- ものごとは最初が大切だ。しっかりと計画を立て、今を大切にする。
  ⇒積み重ねていくことが、自分自身の一生を大切にすることにつながる。

○「玖島中」が本物へ続く姿に「自信と誇り」を

○学校教育目標「ものにする　ものを言う　ものに成る」の実現に向けて
⇒「『あいさつ』、『校歌』、『笑顔』が輝く学校」を目指してきた。

○それぞれの生徒、それぞれの学年の活躍をたたえながら、令和7年を迎えることができた。
⇒さらに進化して令和6年度を締めくくりたい。
2学期の終業式でも話したが、一人一人の一歩は小さい、
しかし、452名の集団となればとてつもない力、歩みとなる。

○今後も、努力と成長を続けている自分自身に、
そして「玖島中」が本物へ続く姿に「自信と誇り」をもち、皆でさらに前進を続けよう。

※皆さんが今に留まることなく大きな成長を遂げて、「玖島中」をさらにすてきな学校にしよう。

◇着任職員の紹介～お世話になります！「玖島中」の一員として、力一杯頑張ります～

○　1月8日付で　森正博　講師が着任されました。1年生1・2・3組の英語科の授業を担当されます。